

100円玉大のペースメーカー心臓内部に取り付け 県内初

2017年09月08日 08:18

大垣市民病院(岐阜県大垣市南類町)は7日、不整脈の患者に対し、心臓内部に100円玉大の小型ペースメーカーを直接取り付ける新しい手術を県内で初めて行ったと発表した。足の付け根からカテーテルを通して取り付ける手術で、患者の負担、合併症を減らすことができるという。

従来のペースメーカーは胸を切開して皮膚の下に埋め込み、本体から出る電気刺激を細長い電極(リード)を通じて心臓へ伝える仕組み。一方、新型の「リードレスペースメーカー」はカプセル状で、幅7ミリ、長さ2.59センチ、重さ1.75グラム。リードはなく、本体が直接心臓に電気刺激を与える。



新しいリードレスペースメーカー(右)。左は胸部の皮膚の下に埋め込む一般的なペースメーカー

手術は6日、心臓のリズムが遅くなる徐脈性不整脈の70代と80代の男性患者に行った。2人は7日、歩くこともできるという。手術を担当した循環器内科の森島逸郎部長は「今後改良が進めば多くの患者に使えるようになると思う」と話している。

2017年09月13日 読売新聞

新ペースメーカー 初手術...大垣市民病院

胸切開不要の小型

大垣市民病院は、心臓病患者2人に、リード線のない新型ペースメーカーを取り付ける手術を、県内で初めて行ったと発表した。従来型と比べ、胸部を切開する必要がなく、体への負担も小さいという。

同病院によると、手術は今月6日、心臓の鼓動が遅くなる徐脈性不整脈の80歳代と70歳代の男性患者に対して実施した。従来型は長さ7～8センチ、幅約5センチの本体を胸の皮膚の下に埋め込み、静脈を通して本体から出るリード線を心臓に挿入し、電気刺激を伝える仕組み。

今回、取り付けた新型は直径約0.7センチ、長さ2.59センチのカプセル形で、重さ1.75グラム。足の付け根からカテーテルを通して直接、心臓内に入れ、固定する。米国で開発され、国内では2014年に最初の手術が行われた。今月から保険が適用されるようになったという。

手術をした森島逸郎・循環器内科部長は「2人とも術後の経過は順調。新型は非常に小さく軽いため、ペースメーカーの存在を意識せずに済み、生活上の制限も少ない。本体やリード線による合併症も生じにくい」と利点を強調した。